

新空港へ、歩いて海を渡ろう!

新北九州空港連絡橋



1.本島側のスタート地点。歩行者はスロープで橋に上る。上り口は公園風にデザインされている(写真:特記以外は本誌) 2.歩行者用のスロープ。階段でも上れる。 3.橋の数カ所に休憩のためのベンチがある。歩道は橋の片側だけに付いている 4.休憩スペースにある橋の構造の説明板 5.床の所々に現在位置を示すサインがある 6.照明灯も新たにデザインした。色はアーチよりもやや薄いグリーン。内側に傾斜しており、車道からはゲートのように見える 7.あいにくの曇天のため、この日は歩行者とはすれ違わなかったが、橋の中央付近で犬に遭遇!歩道が付いていると、犬もぶらりと海を渡りたくなるのか... 8.空港島から見た橋の全景。我ながらよく歩いた

歩道が付いているので、歩いて渡れます——。3月16日に開港した「新北九州空港」は、相次ぐ新空港の開港でいまひとつ話題に欠ける感があった。だが、そんなメールをもらっては行つてみないわけにいかない。

メールの主はスピングラス・アーキテクト(福岡市)を主宰する松岡恭子氏。空港島と本島を結ぶ海上連絡橋のデザインを、土木コンサルタントのオリエンタルコンサルタンツとともに担当した。「この橋にかかわるようになったのは今から13年前。20代でやり始めて、完成したら40代になってしまった」と松岡氏は笑う。

橋は全長2.1km。船の通り抜けるために中央部分が210m無柱の大スパンになっている。特徴の一つはこの部分の橋桁を吊るアーチのデザインだ。アーチの色は「曇り空にも映える」(松岡氏)ウグイス色。よく見ると、側面の傾斜角が位置によって微妙に違う。橋桁の近くでは四角形の断面だが、頂部付近では六角形になっているのだ。「当初は2本のアーチが交差する案を検討していたが、コストが合わなかった。それで、一本のアーチで刻々と見え方が変わるようにするにはどうするかを考えた」と松岡氏は説明する。

そして前述の歩道。「歩道を設けることは私が参加した時に既に決まっていた。それはすごくいいことだと思った。ただ、手すりやフェンスなどの細部を、歩く人が見ても耐えられるようにデザインし、それを実現するには苦労した」(同氏)。

その苦労をつぶさに見るべく、バスを空港一つ手前の停留所で降り、歩いて空港へ向かった。なるほど歩いて渡ると橋のディテールがよくわかる。途中、数カ所に休憩のためのベンチがあるのも心憎い。

ただ、橋の長さは2.1kmでも、バス停から空港までの距離は5km近くある。写真を撮りながらゆっくり歩いたこともあり、空港にたどり着くのに1時間40分かかった。徒歩横断に挑戦する際には、くれぐれも時間に余裕を持って臨んでほしい。(本誌)



海上から見る。全長2.1kmのうち主径間部の400mが鋼モノコード式バランスドアーチ橋となっている(写真:岡本公二)

